



藪口 翔大 くん

このたびは、国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」の受賞ありがとうございます。

4年まえ、こてはし台小学校5年生だった私達は、学級活動の時間に、こてはし台調整池の見学会があり、調整池のほとりを散策いたしました。

どんな池にしたいか、「夢の調整池」を絵で表現するため、6人の班で考える事になりました。

こてはし台付近の池はコンクリート護岸でザリガニや鮒などが獲れるような水辺がありませんでした。僕たちは水辺にふれあえるようにしようと話し合いました。では、どうしたら水辺に触れ合うようになるのかをみんなで考えて、水辺の上を歩けたら楽しいんじゃないかという案が出たので、水辺を木の橋で囲み、水辺の上を歩けるように橋を渡してみました。また雨などの時、急に増水する事が予想されるので、避難するための出口を一か所にするのではなく、複数の出口を設けることを考えました。そして調整池の周りにウォーキングコースと休憩場をつくることで子供からお年寄りまで、たくさんの方がこの施設を利用してもらえるように工夫しました。

そして、みんなの意見を1枚の絵に描きました。その時、描いた絵が、金賞（パートナーシップ賞）に選ばれました。そして、自分たちが考えたアイデアが調整池

を作るために取り入れられたと聞き、みんなで「すごいね！」と言ってわくわくして話合った覚えがあります。

さらに、僕たちが知らない間に国土交通大臣賞の審査があり、受賞した事を中学校の校長先生から知らされた時は本当にびっくりしました。小学校の先生方や、中学校の先生方にも大変喜んでいただき、本当に凄い賞を頂いたんだとじわじわと実感がわいてきました。

先日、改めて完成した調整池を見に行きました。調整池の水辺で大勢の子供が遊んでいたり、ウォーキングする人が橋を渡っていて、とてもうれしく思いました。ありがとうございました。



河本 はるか さん

私たちは、小学5年生の時にこの調整池のデザインを考えました。自分たちが思う、あったらいい場所を全員で話し合って決めました。

具体的には、水辺の近くに行ける橋とお年寄りが苦勞せず歩けるようベンチを所々に設置したことです。

自然とのふれあいを大切にしたいと思いウォーキングコース、魚やザリガニ釣りができる場所を用意しました。私自身このデザインを考えた時、イメージしたのは、小さい時によくいていた森でした。私にとってその森は、大切な場所だったので。なので、この調整池も誰かにとって大切な場所になればと思いました。

この間、実際に家族と調整池に行ってきました。小さい子供からお年寄りの方まで幅広い年代の人が来ていてそれぞれが、自然と触れ合っていました。正直、予想以上に人が来ていて驚き、それと同時に喜びがこみ上げてきました。生き物も多く、池に行くまではなにもいなかったのに入った途端にトンボがたくさんいて、あまり自然では見られなくなったメダカもいたので自然の大切さを改めて感じる事ができました。環境問題が話題になっている今、私たちの生活に必要な調整池を自然あふれる場所にすることで自然の大切さ環境を守る必要性について興味を持つ方が増えてくれればうれしいと思います。